



# 四 気 折 々

川越町立川越中学校  
学校だより 第10号  
令和5年6月15日  
・「いのちの大切さ」について  
・部活動を通じた心づくり

## 令和5年度「川越中学校教育ビジョン」

『関わることを通して、人権が大切にされる「仲間づくり」』を柱として一人一人の子どもたちを大切にしたら5つの取り組みをすすめます。その一つ、川越中では「心とからだの健康」を大切にします。

- 部活動や校外活動を通じた「からだづくり」と「心づくり」
- 地域とともにある食育教育推進
- 心の大切さを考える講演会
- 心とからだに関わる教育相談
- 読書活動の推進（図書室の利用）

① 川越中学校では、昨年度からの『いのちの大切さを考える講演会』を実施しています。今年度からは、学校教育ビジョンの中に位置づけ、大切な取り組みとして1年間かけて系統的に実施していきます。

## 「いのちの大切さを考える講演会」は、「出会い学習」でもあります。

川越中学校のみなさんに、どうしても出会ってほしい講師のみなさんをお招きし、講演会をしていただきます。第1回目は、三重県交通遺児を励ます会 会長の「安田 厚子さん」です。第2回目は「多様な性のあり方No.2」を、第3回目は「性教育」についての全校生徒を対象にした講演会を計画しています。

講師の方の「生き方に触れてみる」。そして、周囲の人や仲間のこと、自分のことをしっかりと考えるきっかけとする。出会いを通じた講演会から、「いのちの大切さを」「自分らしく生きること」を考え、気づき、そして「自分事として受け止めることができる感性や想い」を磨いてほしい。心を込めて、そして、ご自身の生活やしんどい過去等をありのまま伝えていただくという想い。みなさん一人一人の素直で優しい心に響くはずだと思っています。講演会の内容を、「つらかったんだろうなあ」「こんな大変なことがあったんだ」で終わらせるのではなく、みんなが、大切な家族のこと、大切な友だちのこと、そして大切な自分のいのちに置き換えて自分事として考えてくれたことが一番嬉しかったことであり、これからも継続して取り組んでいく重要性を改めてご連絡考えることができました。

## 【 安田厚子さんの講演会を振り返って…

6月8日(木)の川越中学校 HP にも更新】

6月8日(木) 6限目、全校生徒対象にした「いのちの大切さを考える講演会」を実施しました。この取り組みは三重県警本部、みえ犯罪被害者総合支援センター共催にて実施をしました。事務局次長の森田 慎也さんからのお話をいただいた後、講演会に入りました。今年度はじめての講演会は、「三重県交通遺児を励ます会 会長」の安田厚子さんとの出会いです。安田さんの講演から子どもたち、私たち教職員も多くの学びがありました。

安田さんは、ご自身の旦那さんを東名阪国道での玉突き事故によって交通事故の犠牲となり、大切な命を一瞬で奪われました。事故後の壮絶で、悲しくつらい体験を子どもたちに向けて、丁寧に言葉を選びながら、優しく語り掛けるように切々と講演をしていただきました。「テレビを観ていた交通事故で1名死亡」のニュースが自分の旦那さんであった事実。「新聞やテレビでは他人事として今まで考えていた交通事故。その事故によって引き裂かれた悲しみは強烈でした……。夫がいなくなった現実を認めることができなかった。悲しみは薄れるどころか日に日に心が打ちのめされるように深まった」。その現実を大切な子どもとともに受け止めて歩んできた生活。交通事故の被害者には、加害者と向き合う葛藤があること。裁判を終わるまで見届けてきた事実。子どもはその悲しみを胸の奥深くにしまい耐え忍び育った。しかし、そんな時でも多くの人とのお会いがあったからこそ、ここまで生きてこられた。多くの人に支えられてきた。多くの支えてくれる人たちのおかげで生きていくことができたとお話しいただく安田さんに、川越中学校の子どもたちだけではなく、私たち教職員も他人事としてではなく、本当に自分事として考える、心に響くお話となりました。『命の重みと、ハンドルを握る重みは同じ』。『命の尊さと無事故の大切さ』『交



通事故被害者遺族の子どもたちは、小さなからだで、その痛みを一身に受け止めます。安田さんは被害者講演会等で多くの方々に伝えることで、交通事故の数を減らしていくこと。自分の大切ないのちについて考えることは、自分を支えてくれる大切な人たちのいのちについても考えることにつながる。そのようなことを正面から子どもたちに向き合い、わかりやすく丁寧に心を込めてメッセージを送っていただきました。体育館の子どもたちの様子は、一生懸命に安田さんのお話を大切に聴いていました。生徒を代表して生徒会長の奥川陽太さんに、わかりやすい言葉でお礼のあいさつを、全体のまとめとしてしっかりと対応してもらいました。ありがとう！

### 【生徒からの感想を一部抜粋して】

まず、自分の大切な人が亡くなってしまったことや、その後のことを事細かに私たちに語ってくださったことに感謝しています。私もよく高速道路での交通事故のニュースをよく目にしますが、きっと、いつも他人事と考えてしまっていたと思います。でも、それが自分の家族や親戚だったらと思うと、安田さんの息子さんが感じたように、少しでも交通事故での被害者が減ってほしいし、「死者が1人だったときに、亡くなった人が1人で良かった」ではなく、「一人の尊い命が失われてしまった」と捉えていく人が増えていってほしいと思いました。(中略) 安田さんの息子さんの想いには感動しました。今回の講演会は「命の大切さ」を改めて考えることができる、本当に良い会だったと思います。「明日が来るのが当たり前ではない」という安田さんの言葉を心に刻んで、毎日を大切に生きていきたいです。そして被害者にならないのはもちろん、加害者にもならないようにしたいです。

交通事故被害者遺族は、こんなに苦しい思いをしていることを知り、改めて交通事故を起こさないようにしたいと思いました。スマホを見ながら運転をするような危険な行為はほしくないようにしたい。自動車は今では乗れないけど、いつか乗ったときは注意しながら運転をしたいと思いました。自転車でも交通事故はたくさんあるから、自転車に乗るときは注意して運転したい。

いつも家族が全員そろって平和な日常を送れることが「ふつう」ではなく、とても幸せなことだと思いました。普段通り帰ってくると思っていた家族が急に「死んでしまった」といわれてもすぐに信じられないし、とてもつらいことだと感じました。交通事故は一瞬で命を奪いそれまでの当たり前の生活を破壊し、残された家族にとっても深い傷を残してしまうとわかりました。加害者にも被害者にもならず、事故がなくなってほしいです。私も毎朝自転車ですぐ登校するので、人の命を奪う側になってしまう可能性もあるので、絶対に交通ルールを守ろうと思いました。安田さんのお話がとても心に残りました。一人の不注意が、こんなにも心を傷つけてしまうということがわかりました。

## ■ 部活動や校外活動を通じた「からだづくり」と「心づくり」

### クラフト部2・3年生が製作した『ギターラック』を川中音楽科に贈呈！

昨年度の3学期から計画・製作をはじめてきた渾身の作品です！  
すべて手作りのあったかい心がいっぱい詰まったギターラックが完成！  
みなさん本当にありがとう！ 6月13日(火)の放課後16時30分。川越中学校南館3階の学習室において、クラフト部の2・3年生のみなさんが製作した『ギターラック』の完成と川越中学校音楽科への贈呈が行われました。写真は、贈呈の際にクラフト部の2・3年生みんなに集ってもらった記念撮影です。みんなとってもステキな表情で写真に写ってくれました。このステキな表情は、これだけ素晴らしいものを時間をかけて制作してきた過程があるからこそ、達成感や充実感はもちろんのこと、クラフト部のチームとしての、そして一人一人の成長でもあるんでしょうね。今回の贈呈された作品を写真だけでは、心を込めて制作してもらった『ギターラック』の素晴らしさを全部伝えきれないのが本当に残念です。この作品は、10月31日(火)の「川越中学校文化祭」において、クラフト部の製作作品としても展示させていただきます。3年生の生徒からは、このギターラックの制作にあたり、「昨年度の3学期から計画・設計・製作を始めてきて、1個目は今の3年生だけで製作し、2個目・3個目は今の2年生と一緒に協力して製作してきました」とのこと。「計画から設計・製作・完成までに約半年近くかかっている」ことも初めて聴かせてもらいました。これだけの時間をかけ、そして、いっぱい心を込めて、クラフト部みんなの気持ちをいっぱい込めて創りあげた作品には魂がこもっています。本当に子どもたちの成長と頑張り、一生懸命がいっぱいです。そして、顧問として指導いただいた小坂先生にも感謝の気持ちでいっぱいです。丁寧に子どもたちに日々寄り添いながら指導を継続していただいた成果です。本当にありがとうございました。7月3日(月)に部活動の「壮行会」が開催されます。その際に、全校生徒の前で、校長からクラフト部に「感謝状」を準備させていただきます。  
(写真にもあるように昨年度は体育館管理室のシューズ棚を製作してもらいました)心がとってもあたたかくなる時間をつくってもらいました。ありがとう！



